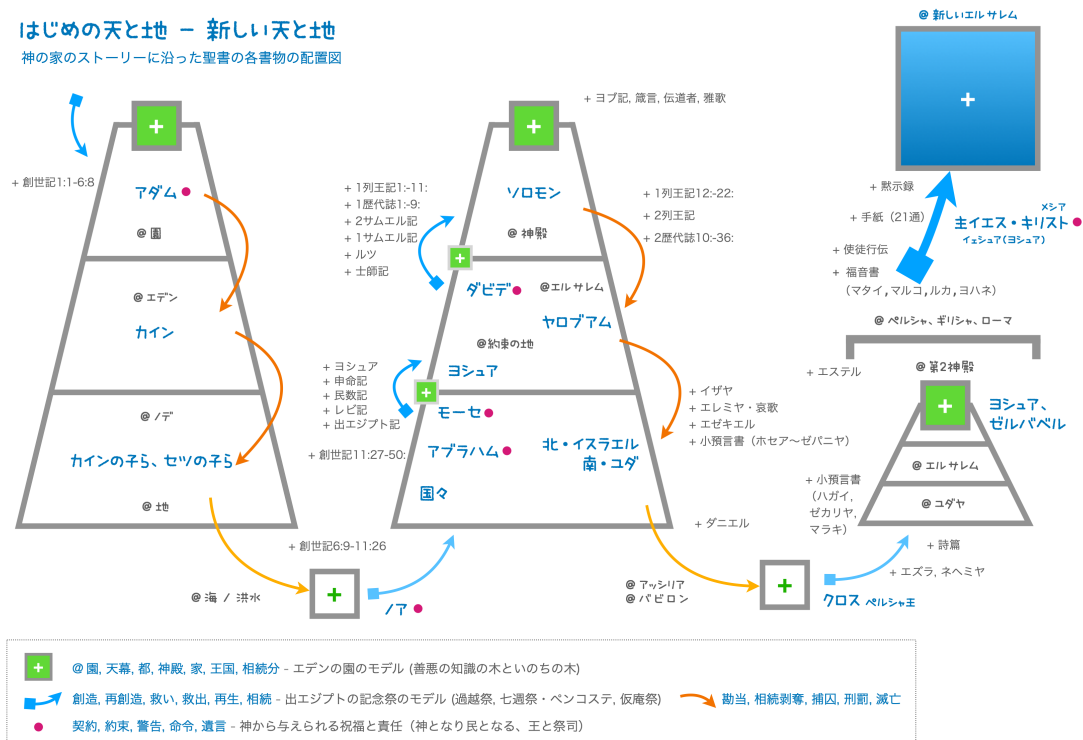




聖書全体の流れをつかむ 聖書通読 その前に

はじめの天と地 - 新しい天と地

神の家のストーリーに沿った聖書の各書物の配置図



Copyright kurabeteyomu.com 2020 v20201224

聖書の通読ということで、「この一年で今年は絶対最初から最後まで読むぞ」と思って何度挫折したことか。皆さんも多分そうじゃないかと思うのですが。なかなかワクワクするような書き方でもないようですし、場所も時代も私たちと関係ないような感じもしますから、身近なストーリーとしてなかなか読めない。身近なものとして感じる部分も、たまにはありますけれども、何千年も聖書、聖書と呼ばれて読まれている。でも、その割には読むことが難行苦行になってしまうというのが問題だなと思って、聖書の通読表というのをいろいろ探すわけですね。いろいろ探すんですけど、何章から何章までと言って、今日はどこだっけっていうような感じでなかなか進まないのですね。

これは20年ちょっと前に出会った通読表です。何度か読んでいたことは読んでいますので、全体として分かりにくいものはこのあたりとか、分かりやすいものはこのあたりとかというような位置付け自体は分かっていました。ほとんど読みにくいのですが、この通読表は7つに分けてくれたのですね。律法、歴史書、詩篇、詩歌、預言書、福音書、手紙と。7つに分けてくれて、それぞれを一年、52週で読めるように分けてくれたものがありました。それで、月火水木金土と7つの種類の味を一週間横に読んでいる感じです。普通は縦に読むのですが、横に読んでまんべんなくいろんな味を味わうようにという通読表で、なるほど上手く分けてくれたなと思いました。それで、やっているんですけど、やっぱり読みにくいんですね。何で読みにくいのかなということなんですけど、いろんな理由があると思います。自分の歩んでいる道に役に立つ教訓とか、人生訓

聖書通読 その前に・・・

聖書はつまらない？

聖書は、何千年にもあたって読み継がれ、今日でも多くの人々のたましいの糧となっている。とはいえ、そこに書かれていることは必ずしも現代人になじみぶかいものではなく、またそこにつづられている内容はいつも教訓的なものとは限らない。最初から最後まで読み通してみようとしても途中で挫折する。話に結論がなく、こま切れに見えることはしばしばである。なぜ、読みにくいのだろうか。なぜ、あくあきしないのだろうか。

聖書は 小説 映画 ではない

- ✖ 自分の道に役立つ、教訓や人生訓、処世術が取り出せる特効薬じゃない。歩むべき道自体を変えるように促す。
- ✖ 小説や詩のように、心理描写、情景描写が中心に書かれてはいないので感情移入させてくれない。映画のようにふんぞり返って見て何かを受けとるエンターテインメントの物語ではない。
- ✖ 聖書の基盤はヘブル文化（ヘブル語聖書）であり、ギリシャの西洋的文化ではない。
新約聖書もギリシャ語で書かれているが、ヘブル語の表現やヘブル的思想にあふれている。
- ✖ 真理は、抽象的概念的、教理的哲学的には表現されていない。
ことばは、命題の形や辞書的に表現されていない。
いのちとは何ぞや、ではなく、如何に生きるか、読者に行動が要求される
- ✖ ステップロジック（序本結の論理表現）ではない。ブロックロジック（両極の並行法）で話が飛んでいるように見える。
- ✖ 「救い」は、個人的で心の中の信仰義認にとどまらない。
神の国が勝利する福音である。言い換えると再創造、新創造。
- ✖

ざっくり読む、じっくり読む、くりかえし読む、くらべて読む・・・

最初から最後まで一度通して読んでもあからない。行きつ戻りつ繰り返してくらべて読む。大きくざっくり、細かくじっくり。通読は、全体像を大きくざっくり把握するための読み方。聖書の読み方の前に、まず、聖書の書き方に注目する。聖書の表現方法や編集技法を知ることによって、聖書自体が語らんとするところを読み出すことができる。ひとことと言うなら、「くらべて読むように書かれている」ことが聖書の書き方の特徴である。

Copyright kurabeteyomu.com 2020 v20201224

とか処世術が取り出せるのかなと思うと、そんな簡単に取り出せるわけでもない。どちらかと言うと歩むべき道自体を変えるように言われているのもですね。小説とか詩のように、心理描写、情景描写が中心に書かれてるものではないですから、感情移入しやすいようなものでもない。映画のように後ろにふんぞり返って見ていれば、「あーなるほど、なるほど」というエンターテインメント的なストーリーでもない。もっと元々の話ですかね。

聖書のその基盤がヘブル文化なんですね。中東の今のイスラエルがあるあたりの文化の書物で、私たちが慣れている西洋のギリシャ的な、西洋的な表現の文化ではないのです。ですから、表現方法が違っているということです。ヘブル文化なのに、ギリシャ的な目で見てしまうというのが分かりにくさの大きな原因の一つになっていると思います。真理が抽象的で概念的とか教理的、哲学的、そういう表現ではないのですね。命題の形で「信仰とはなんぞや」というような「命とはなんぞや」というような書き方ではなくて、「いかに生きるのか」。いのちの話を考える時には、命とはなんだろうっていうことよりも、「どうやって生きるのか、いかに生きるのが良い生き方なのか」。そういうことが書かれていて、読んでいる人に、それをどう生きるのかということを行動するように、良い生き方をするように、励ます、教える、導く、そういう書き方になっています。ですから、哲学的、教理的にその箇所を抜き出して読もうとすると合わない。そういうのも、読みにくさ、慣れていないというようなことになってくるのだと思います。ステップロジックと言うのですけれど、序論、本論、結論みたいな命題があって、それを展開して説明して、結論はこうですみたいな表現方法ではないということです。ですから、私たちの信仰が問題で、怠け者なので途中で挫折しちゃうということもあるのですが、まあ、それよりも私達の書物に対する取り組み方が間違っている。慣れてい

ない。その方法を改めないと、いつになっても難行苦行になってしまうということだと思います。最初から最後まで映画を見るみたいに、ずっと見ていけば終わるというものではないのですね。何度も繰り返し大きく見たり、小さく見たりしながら、じっくり読んだり、ざっくり読んだりしながら、見て読んでいくように書かれている。前のことを思い出す。思い出しながら、戻っていく。推理小説だったら、「最初にこの問題は何だ」と言って、最後に種明かしがありますよね。種明かしを見た後に、ストーリーをもう1回振り返れば、「この時にこうしてたのは、ああなんだ」ということがわかるというようなこともありますよね。ですから、どの小説でも同じだと思うのですが、繰り返し読むことによって、その意味が深く細かいところも気づいていくということです。特にくらべて読んでいかないと、「このストーリーの種がこういう風に展開したんだね」ということを見ながら読んでいかないとつまらない。細切れに見えることがよくありますよね。どこか読んでいたら、この話はここで終わっちゃったというようにあると思うんですけど、そういうものってだいたい最初を書いてあったものが、ここにこう展開されてるんだねということがわかると、もっと興味深いものとして、読むことができるようになります。

そういう問題、読み方がまずいなと思っていたんですけども、どうも書き方がどうなってるのかを知らなかったと。表現方法がどうなっているのか知らなかったということが、通読が続かない問題だということに気がついていて、聖書の元々のヘブル文化のヘブル語の文学の書き方の分け方に従って、読んでいくということをするようになってきて、それで通読表を新しく書き換えています。書き換えているまだ途中です。

例えば、これは元々7週に分けた時の通読表なのですが、創世記から黙示録までが52週で分かれています。1章から3章、4章から7章と。これは数ですね。1章から3章がひとつのストーリーのまとまりになっているからじゃなくて、3章ずつ読むとだいたい終わるということで、これは量で分けてあるものなのですね。1章、2章、3章というのは、元々の聖書についてたわけではないのです。聖書には章が付いていません。段落がついてないですね。これは1200年代にもう800年前にイギリスの大司教が教えるために、いろんな翻訳があって、「あなたのそのイザヤ書のこの言い方っていうところを指す」のが困って、ざっとつけたんですね。何章、何章と。そうすれば、マタイ5章と言えば皆同じところが開けるのでつけたもののようです。まあちょうどいい具合にそれぞれ分けてくれているので、その後、皆さんがそれを使うようになり、それから300年後ぐらいに印刷機が発明されて、聖書が印刷される。その時には、今度は印刷屋さんが、これには節があった方がいいねと言って、節を全部ふって、その時に宗教改革がありますから、自分たちが書く本とか文章に、何章何節に書いてあるようにという事やって広がっていったものが、この章と節なのです。

ですから、ちょうどいい具合なんですけれども、文学的に1章から3章じゃなくて、1章から6章8節までが一つのまとまりだねということは、こういう分け方で読むと間違ってしまうので、話が途中で今日の部分が終わってしまったということになってしまうので、それを解消しようということで全体を見ながら分けてきました。それで例えば、創世記は1章1節から6章8節、6章9節から11章26節。これが「2つのまとまりとして似ているものとして比べてね」というような書き方になっています。その何章何節という区切りを文学的に意味のあるところで区切って、なおかつ、これが52個のパーツになっていますので、その形で確かめて、その内容にふさわしいまとまりで分けたのが、こちらの通読表の「文学構造編」と書いてあるものです。

箴言は細かく分け方が違いますので、何章何節というところが随分違っています。イザヤ書は章の区切り自体は、この章を作ってくれたラントン博士、ラントン司教は上手

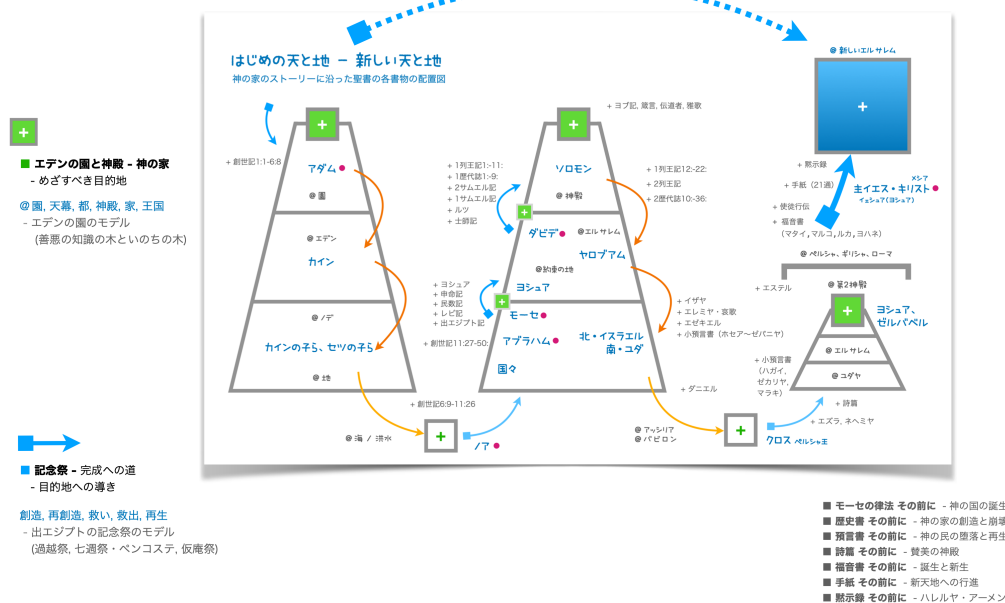
にやってくれていますけれども、この43章の21節と22節、ここだけ分けているところが違ってきます。でも1章から5章、6章から12章ということで、あるところは何章何節という区切りがあり、あるところはそのままだら何章から何章というのが分かれているようなパーツになっています。詩篇は、1篇から11篇と、19篇から31篇。12篇から18篇と、32篇から41篇。こういう大きな四つに分かれているので、その中を何個かに分けてやりましょうと。手紙と黙示録も、この中が52個に分かれているということです。というものなんですね。こうやって積み重ねていけば、ある程度、この内容ごとのまとまりというものがわかってくるということで、この表を作るのに何年かかかっています。じゃあ、ここに題をつけたらいいんじゃないということなのですけど、題をつけるという事は難しいですね。それは読みながら自分でつけていくということになると思うんですけども、それでも量が多いですね。大きな大きなこのざっくりとした流れを把握するというのが、聖書の通読の目的になると思うのですが、それでも自分でこの長いものを読んで、その大きな流れをつかむというのは、結構大変な、慣れていないものに対してなので、読む前に全体像を把握しておいて、それで読み始めて頂いた方がいいだろうと思います。

聖書通読 その前に・・・

聖書の構造を見極め、聖書の筋書きを見通すために

■ はじめの天地、新しい天地 - はじめの結核、新しい結核

■ 旧約聖書、新約聖書 - 見える天地、見えない天地



「新しい天と新しい地を見た」というところから21章が始まります。最初は「初めに神が天と地を創造した」というところから始まります。普通本を見て、最初を見たら最後はどうなるかなということなんですけど、この最初と最後。最初にストーリーの種があった。あーだからこうなったんだという最後の場面が似ているものとして書かれています。初めの天と地の創造から始まって、新しい天と地の創造で終わる。これが聖書全体の大きな枠なのですね。

聖書は、結婚ではじまり、結婚で終わる

■ 聖書はアダムとエバの結婚式ではじまり、主イエスと教会の結婚式で終わる。ユダヤ人は、安息日のことを花嫁とも呼ぶ。結婚の意義は偉大です。エペソ5:32。

		はじめの創造 創世記1-2章	新しい創造 黙示録21-22章
創造		はじめに神は天と地を創造された。Gen 1:1 神はその第七日を祝福して、これを聖別された。Gen 2:3	あたしはまた、新しい天と新しい地を見た。先の天と地とは消え去り… Rev 21:1
花婿 花嫁		神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女に創造された。Gen 1:27 それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。Gen 2:24	また、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意をととのえて… Rev 21:2 さあ、きなさい。小羊の豊なる花嫁を見せよう Rev 21:9
新居 働く場		主なる神は妻のかた、エデンに二つの園を設けて… Gen 2:8 その第一の名はバザンといい、金の泉の八ビラの金地をめぐめるもので、Gen 2:11 その地の金は良くて、またそこはブドウと、しめのうとを産した。Gen 2:12	城壁は碧玉で築かれ、都はすきとおったガラスのような純金で造られていた。Rev 21:18 都の城壁の土台は、さまざまな宝石で飾られていた。第一の土台は碧玉… Rev 21:19 十二の門は十二の貴珠であり… Rev 21:21
官の食事		また主なる神は、見て美しく、食べるに良いすべての木を土から生えさせ、更に園の中央に命の木と、智慧を知る木とを植えさせた。Gen 2:9	都の大通りの中央を流れている。川の両側にはいのちの水の川があって、十二種の果を結び、その果は毎月みのり、その木の葉は諸国民をいやす。Rev 22:2
飲み物		また一つの川がエデンから流れ出て園を潤し、そこから分れて四つの川となった。Gen 2:10	御使はまた、水晶のように輝いているいのちの水の川をあたしに見せてくれた。この川は、神と小羊との御座から出て… Rev 22:1 かかっている者はここに来るがよい。いのちの水がほしい者は、いかにそれを受けるがよい。Rev 22:17
栄光		神は二つの大きな光を造り、大きい光に昼をつかさどらせ、小さい光に夜をつかさどらせ、また星を造らせた。Gen 1:16	都は、日や月がそれを照らす必要がない。神の栄光が都を明るくし、小羊が都のあかりだからである。Rev 21:23
主となる		「生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ。また海の魚と、空の鳥と、地に動くすべての生き物とを治めよ。」 Gen 1:28	諸国民は都の光の中を歩き、地の王たちは、自分たちの光榮をそこに携えて来る。Rev 21:24 夜は、もはやない。あかりも太陽の光も、いらない。主なる神が彼らを照し、そして、彼らは世々限りなく支配する。Rev 22:5
衣		人とその妻とは、ふたたりとも裸であったが、罪を犯さずには居られなかった。Gen 2:25	彼女は、光り輝く、汚れない麻布の衣を着ることを許された。この麻布の衣は、聖徒たちの正しい行いである。Rev 19:8
約束		しかし智慧を知る木からは取って食べてはならない。それを取って食べると、きつと死ぬであろう。Gen 2:17	もしこの預言の書の言葉をとり除く者があれば、神はその人の受べき分を、この書に書かれています。いのちの木と聖なる都から、とり除かれる。Rev 22:19
誓い		彼らは、日の涼しい風の吹くころ、園の中に主なる神の歩まれる音を聞いた。そこで、人とその妻とは主なる神の前を避けて、園の木の間に身を隠した。Gen 3:8	御使も花嫁と共に言った、「きたりませ」。また、聞く者も「きたりませ」と言いなさい。Rev 22:17
祝福		神は彼らを祝福して言われた、「生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ。また海の魚と、空の鳥と、地に動くすべての生き物とを治めよ。」 Gen 1:28	主イエスの恵みが、すべての者とともにありますように。Rev 22:21

Copyright kurabeteyomu.com 2020 v20201216

それで、通読をする前に最初に最初の2章だけ読んでみてください。3章じゃないですよ。2章だけです。最後の2章だけ読んでください。それでその箇所を比べてみてください。いろいろな同じもの、同じ場面の最初の創造の場面のリメイクされた場面みたいな感じ。同じものがあるけど、レベルが全然違うんだってことが分かるような大道具、小道具、セリフ。同じ場面のように見えるものとして書かれているという事が分かるのではないかと思います。

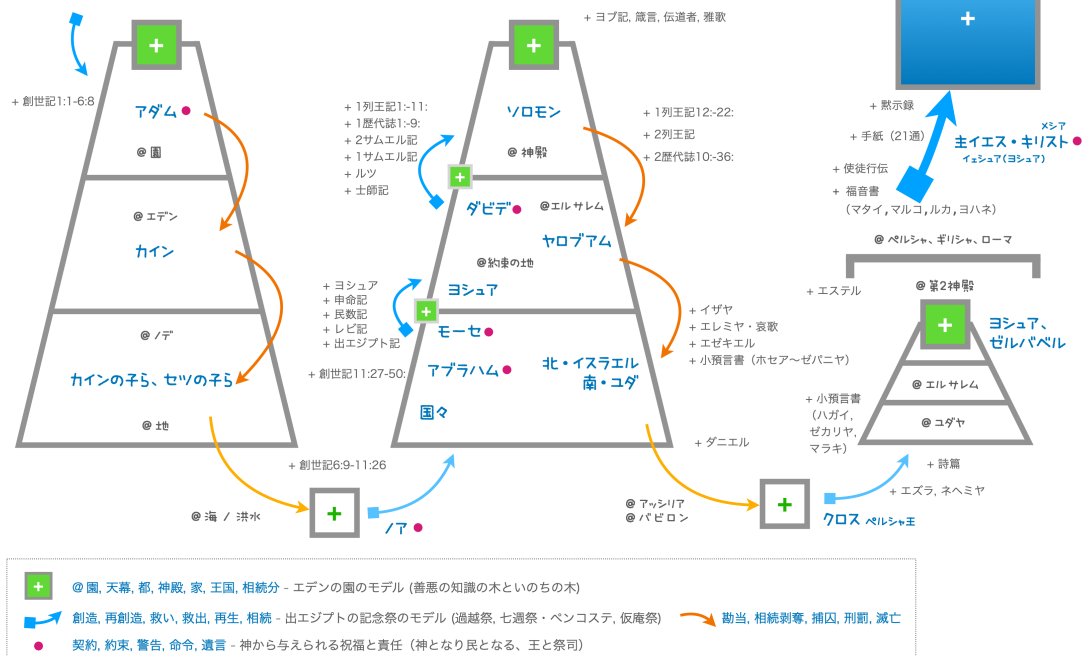
最初はアダムとエバの結婚です。最後は主イエスと教会の結婚、結婚式。結婚式で始まって結婚式で終わっているというストーリーというのが、この聖書のはじめと終わりに書いてありますので、初めの結婚と新しい結婚。結婚で始まって結婚で終わると言ってしまうと、結論が結婚であるかのように思ってしまうかもしれませんが、結婚は始まりなのですね。新しい家の始まり。新しい結婚も新しい時代の始まりなのです。

結婚、そして新しい結婚。元々のその最初の人間と人間のアダムとエバ、男と女の結婚は、主イエスと教会の結婚、ここに最後に偉大なる栄光が現される。ここからここに行くんだよということをこの最初の創造のストーリーと黙示録、この最初と最後の比較

ですね。相似形みたいな感じです。同じものが似ているのですけども、もっと大きくて、もっと偉大なものに成長している。誓いがあったり、祝辞があったり、王様は誰で、ウエディングドレスは何で、というようなことが、その新居、家はどうなっているかというようなことを見て、この全体のストーリーは、どこから始まってどこに向かっているのかと。この結婚の奥義は偉大ですと言っているのは、エペソ人への手紙で言われたりします。

はじめの天と地 - 新しい天と地

神の家のストーリーに沿った聖書の各書物の配置図



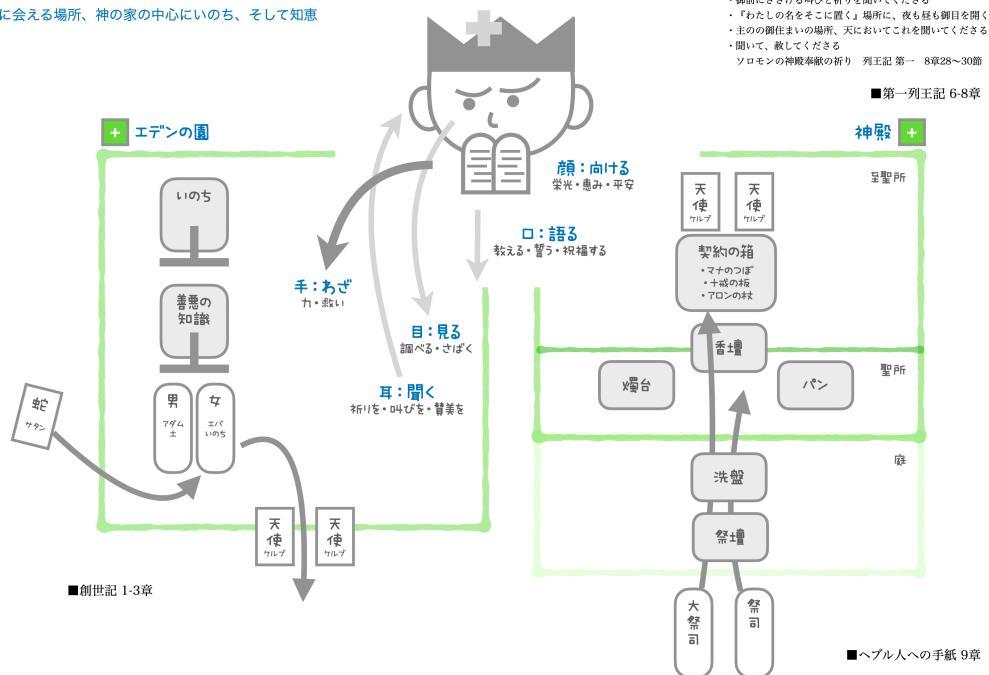
この聖書のストーリー自体がアダムが作られて、エデンの園が作られた。ここにストーリーの種があつて、これがずっと歴史を通して、新しいアダムである主イエスと教会の結婚、これでこの書物が終わるんだと。じゃあ、間はどうなっているのかということ、見ていかなければいけないというのが、聖書全体のストーリーの一番大切な「はじめと終わり」ということでしょうか。はじめの創造と新しい創造、はじめの天地と新しい天地ということ。じゃあ、はじめに作られたこの天地の真ん中にあるこの園、詳しく説明されているエデンの園というものは、どういうものなのだろうかと。そして、そこから追い出されたり、洪水があつたり、モーセが出てきたり、ダビデが出てきたり、これはどういう流れなんだろうということなんですが、この緑色のこの場所ですね。四角くて十字架が付いている。これは園、天幕、神殿、新しい神殿。ここは神様の家なのです。神様の家で、神様に会える場所、神様と共にいる場所、特別に聖い場所ということですね。神様のいる場所、神様の王座がある場所。いろんな言い方があります。その王座がある場所、その一番特別に祝福されている場所に、最初からアダム、人は置かれていた。しかし、そこから追い出されたのです。さらにその園から追い出されたのがカインです。エデンは国の名前です。園から追い出されて、国から追い出されて、さらには、その子供達は地上から追い出された。これが洪水です。3階建てみたい

な感じです。1階から落ちて、ここ2階から追い出されて、さらにここ2階から追い出された。これは約束があつて、警告されているにも関わらず、言うことを聞かないので、追い出される。約束があるのですね。この赤い丸が何個かありますけど、赤い丸がついています。ここに契約、契約と言ったり、約束と言ったり、命令とか、遺言とか、いろんな言い方があると思うんですけども、契約というのは、約束と、約束を守らなければその受ける分を失いますよという警告。警告付きの約束ですね。祝福の約束というのは、祝福は「守らなければ得られませんよ」という警告も含まれてますよね。ただあげますという約束じゃないですね。ですから、元々もらうはずの相続分をもらえないという意味で、ここから追い出されることが勘当、相続を剥奪される、囚われる、刑罰を受ける、滅びる。こういうものが、創造される、救われるという事の反対な感じです。まず、せっかくもらった園なのに追い出される、剥奪される。相続権を失うのに、また今度、兄弟を殺してまたそれも失うということで、失うのですけれども、失ったものは園と国と地ということです。箱に入ってノアが救われる時に、アダムに与えられた約束と同じようなものを言われます。それが創造と洪水なのですけど、洪水は再創造です。もう一度創造する。それを救いと言ってる時には、救いという言い方がありますが、救いは再創造する。もう一度新しくされるというのが救いという言葉の中に言われている内容になりますよね。救出されて救われて、もう一度相続を受けられるようになりますということで、ここからノアが戻ってくると、地上に人間が戻ってきます。国々が。この失われた子らが戻ってくるとのことです。地上が戻ってきたんですね。地が戻ってきました。地に人々が戻ってきました。今度地上に人々が戻ってくると、この国、国がもう一度与えられなきゃいけないと。もう一度、国が回復される。それを待っているわけです。アブラハムという人は、この国々の人々の中から選ばれて、「あなたの子孫は約束の地に入りますよ、偉大な国民になりますよ、大きな国民になりますよ」ということを約束されて、モーセの時代になって初めて、いよいよ、大きな国民になっていますね。国になっている。この国になっているものを、モーセが連れ出して、新しい約束の国を作る。モーセの後継者ヨシュアが約束の地でそれをしますね。時間がかかる戦いですね。ヨシュアが勝ち取ったこの約束の地、それがエデンの国が国としてもう一度戻ってきたというような状態です。国が戻ってくると、その中心の一番祝福されている園が回復されないと、この落ちていた墮落して落ちていったものが回復する。まだ国しか回復してないですね。ヨシュアの時代、ダビデの時代になって初めて、そうだ神殿、神様の家は、それまでは仮の家なんですね。この天幕というのは仮の家で、移動型のものだったんですけども、ふさわしい場所、主が選ばれる場所にその家を建てたいというダビデの願いが聞かれて、ソロモンの時代に神殿が建てられました。その神殿が建てられたというところまでで、一応アダムが失ったものが、ソロモンによって回復して、このエデンの園の状態がもっと栄光ある状態として回復しますという事が、ここからストーリーとして流れてくるわけです。

この緑の四角のところをもう少し見てみると、これがアダムとエバの時のエデンの園、こちらは神殿ソロモンの時の神殿。庭と聖所と至聖所があります。神様はどちらも共にいてくださる場所、神様の家なので、神様は口のようなものがありますので、語ってくれます。教えます。契約の祝福を言う。誓います。口で語ります。目のようなものがありますので、目で見て調べてさばく目で見るのです。私たちが祈ったり、叫んだり、賛美したりすると、耳がありますので聞いてくださいます。ですので、神様の栄光ある御顔の光、この御顔の光を照らして私達の方を見てください。見てくれれば私たちは救われるというような言い方が、詩篇の中にあつたりしますが、お父さんと呼んでいるのですね。見てください。さばいてください。私たちのことを聞いてこっちを見てください。そうすれば、私たちは救われるということで、一緒にいてくれる神様には、

神の家 - エデンの園、神殿

神に会える場所、神の家の中心にいのち、そして知恵



Copyright kurabeteyoumu.com 2020 v20201224

口と、目と、耳と、そして、顔と、右の手で救ってくれると。実際に行動を起こしてくれるということがあります。このエデンの園の中で、いのちの木と知恵の木がありました。それでサタンがどこから入ってきたのでしょうか。入ってきてエバを騙しますよね。それで追い出されてケルビムがエデンの園の入り口で見張るということになりますけれど、新しいソロモンの神殿の中にもケルビムの像があったり、いのちの木の象徴のようなもの、善悪の知識の象徴のようなもので一度追い出されていますから、祭壇、旋盤で洗われないと血で贖われて、水であがなわれないともう一度この家には戻れません。戻れる人にも祭司、大祭司がいますよね。聖さの順があります。ソロモンがこの神殿を建てた時に「祈りと願いに御顔を向けてください。私たちが御前に捧げる叫びと祈りを聞いてください。あなたがそこに名前を置くと約束した場所に、昼も夜も目を開いて見てください。主の住まいであるこの場所、天で聞いてこれに答えてください。そして許してください。」これは神殿を捧げた時の祈りです。まるで、神様がここにいるということをそのまま言っているような感じですね。その神殿の箇所を見ると、エデンの園の役割は、そういうものだったのかということが、もっとよくわかるようになります。善悪の知恵といのちの木、これはどういう役割なんだろうということも、ストーリーを通して見て、同じような場所ですね。同じようなものを見ていくと、この後ろにあるものの光を当てると、最初のものの意味がもっとよく分かります。最初のものはどういうものかが分かっていると、新しいものの意味がまたよくわかりますから、両方を比べながら見ていく場面として書かれている。それで、ここが(緑の十字架)もらえる場所ですから、相続の一番大切な場所ですので、いろいろ詳しく説明されているということになります。それでアダムが落ちて、カインが落ちて、と追い出されたんですけど、これでソロモンの所に戻りました。残念ながらソロモンもまたアダムと同じように失敗をします。そうするとソロモンの次の代、ヤロブアム。こういうソロモンの次の代の人

たちがカインの子孫と同じように、セツの子孫と同じように、神様から離れていって、イスラエルとユダに兄弟が分裂して、最後はこの人達は奴隷になっていく。奴隷になって受けた土地を失ってしまうのですが、また神様は憐れみ深い神様なので、その囚われているところから、もう一度連れ出してくださる。連れ出してくださった後は、同じ場所を洗い清めて下さって、すぐに神殿が建てられます。城壁、エルサレムの町が戻って、城壁が建てられて神殿が建てられるのですが、残念ながらこの時は帝国の支配下なのですね。帝国の支配下でペルシャ、ギリシャ、ローマの下にいるという状態の神様の民ということでしたので、このペルシャ、ギリシャ、ローマこういう支配から解放されて新しい神殿が本当の神様の民に与えられると思っている時代に、主イエスキリストが来る。そうすると、この上の囲っているところですね。ペルシャ、ギリシャ、ローマが倒されると思っていたのですが、全くもって新しいエルサレム、この古い時代の初めの天地ではなくて、新しい天地を造ってくださるというのが、この問題に対する解決だったのです。それで主イエスが来て、新しいエルサレムを築いていくということになるんですけど、この問題から階を移るところですね。3階、1階から2階、2階から3階、この大きな転換点があるわけです。大きな時代の流れが変わるところですね。これが最初のところは、はっきりしているのが、このエジプトから出て約束の地に入る。ここが大きな救いのストーリーの雛形、原型になるわけです。

聖書のストーリーの基本型

イスラエル三大記念祭は、神の国の勝利のストーリー

奴隷の家、エジプトから出て、約束の地、カナンに入るまでの出来事を元にして、イスラエルの暦は決められている。1月の過越祭、3月の七週祭、7月の仮庵祭が三大祭礼である。

記念： イスラエル三大祭	過越祭 1月	七週祭 3月	仮庵祭 7月
エジプトから 約束の地へ	出エジプト	律法授受	荒野
ヨセフ天幕から ソロモン神殿へ	出ベリシテ	ダビデの天幕	ダビデ王の戦い
主イエスの復活から 新天新地へ	復活	聖霊降臨	聖徒の戦い
			新天新地

テーマ：神国の勝利	脱出	恵み	戦い	平和
王のストーリー：	父が導いて、子を連れ出す (子に与える)	父が子に宝を与える (神の恵み、特権)	子が導いて、民を連れ入れる (民の恵み、特権)	民がすべてを相続する (約束の地)
民のストーリー：	義とされる (信仰によって)	聖とされる (恵みによる)	義であることが試される (信仰の試み)	聖であることが明らかにされる (恵みの証)

参考：物語論のアプローチ

登場人物	関与	行動力	求める望	舞台設定	脇役	ゴール	失敗すると
英雄：ヒーロー 神話	自分の外側	自己犠牲 (自己犠牲)	勇気、徳さ、たくましさ	未知なる異国 安全と平和	同志	何かをする：他者のために勇気を出して、困難に打ち勝つ (集団的視点)	死、暗黒
悪役：ヴァンダ おどろき話	自分の内側	自己犠牲 (自己犠牲)	想像力、精神性	家庭を中心とした王国 混乱と変化	友人	何かになる：未だの自分になって喜びを知る (個人的視点)	狂気、失望、自殺

Copyright kurabeteyomu.com 2020 v20201224



エジプトから出ます。シナイ山まで来て律法をもらいます。荒野で荒野を通して約束の地に入るところ、ここで失敗しまして、40年間、38年ですけど、40年間の荒野の時代を経て、いよいよ最後、こちら側から約束の地に入ってくるというこの出エジプトのストーリーです。出エジプトから約束の地へまでのストーリー。これが神様の民が新しく創造される。奴隷の家から連れ出されて自由を得る、安息を得るというストーリー

の雛形になっています。雛形になっているという意味は、そのストーリーをいつも思い出して、神様がどうやって救って、どこから救って何を与えて、どこに向かわせているのかというのをいつも思い出すようにというストーリーだということです。ですので、それを祭りとして規定して下さったんですね。エジプトから出る。これが「過越しの祭り」です。シナイ山の上で宝物をもらいました。律法をもらいました。これが一番神様が与えてくださる宝物ですね。この宝物をもらったというところが「7週の祭り」です。もらったのにふさわしいかどうか試されて合格したら約束の地に行くはずだったんですけど、ここで失敗してしまいました。ここは試される期間ですね。この荒野いよいよ最後のところで、これから約束の地に入ったら、この教えを携えて守ってくださいねということを言われて、約束の地に入っていきますけれども、約束の地に入る時に、ずっと神様と一緒にいてくれたんだということを忘れるなと。家を建てたら移動してた。その仮庵に住んでたことを忘れるな、高慢になるなということが、この約束の地に入った時の祭り「仮庵の祭り」というものです。仮庵の祭りはこの律法を読んだりします。このストーリーにしたがって、神様はいつも導いてくださるので、この三大祭りは記念として、1年の中で3回エルサレムに集まって、ユダヤ人たちが祭りをを行うものというように規定されています。「脱出して恵みが与えられる。戦いがあって、平和を得る」というのはイエス様の復活から新しい天と新しい地の創造。この話も同じように、過ぎ越しの祭りで始まりますよね。マタイもマルコもルカもヨハネも、福音書はクライマックスが過ぎ越しの祭りです。それで、使徒行伝で御霊が与えられます。それが7週の祭りの時です。それでパウロが書いた手紙が13通あります。他の人が書いたものが8通ありますね。その手紙を通して教えられて、新しい天と新しい地、その完成を目指して歩いていくというストーリーにつながっていく。同じようなストーリーが何回か大きな流れで書かれることになっていきますけども、それは新しい創造です。古い時代が終わって新しい時代が来る。古い時代の終わりの日、古い時代の終わりの日なのです。それは新しい時代の始まりの日という意味です。そのストーリーの流れが何度かありますので、そのストーリーの流れも把握しておくというのが、大きな長い聖書全体のストーリーを見る時に役に立つものだと思います。特別に約束が与えられるところもありますね。その言い方、約束の内容、これを覚えておくと、アブラハムの時の歌この約束がここで聞かれたんだね。その約束を守らなかったでここから落ちていったんだねということが、繋がりが分かるようになると思います。

ここに聖書の箇所が入っています。(図を参照してください)書物が書いてありますけれども、創世記の1章1節から6章8節、6章9節から11章、11章27節から50章まで。これはアブラハムの話ですね。そして出エジプト記、レビ記、民数記、申命記、ヨシュア記。それはこの辺の話です。士師記から第一列王記のソロモンの神殿が建てあげられるところまで。士師記、ルツ記、サムエル記、歴代誌、列王記というところは、ここからこの話です。第1列王記の12章、第2歴代誌の10章からのところは、このあたりですね。イザヤ、エレミヤ、エゼキエル。それはここから国として裁かれていくところ、預言書というところです。小預言書の12の書物がありますが、ゼパニアまではこの落ちていく方ですね。ハガイ、ゼカリヤ、マラキ。これはこの戻ってくるこっちの後の方です。ここはかぶさってる感じです。ダニエルはこの囚われて行っているところの話ですね。エズラ、ネヘミヤこの歴史書があって戻ってきました。エステル記がこの辺にあります。福音書、使徒行伝、手紙、黙示録。

創世記の1章1節から6章8節。6章9節から11章26節も一気にここまで行きますね。11章27節から50章まで。アブラハムのあたりです。アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフと。そして出エジプト記、レビ記、民数記、申命記。この区分で区分けされています。詩篇と箴言、ヨブ記この辺はどこに行ってしまったんだということなんですが、ヨ

ブ記、箴言、伝道者、雅歌これは「知恵の書物」と言われますね。箴言、伝道者、雅歌、これはソロモンが書いたと言われています。ソロモンが書いた、もしくはソロモンのような人が書いたという書物ですね。ヨブもソロモンに似ている人です。東の大富豪です。苦しみの中で知恵のあるヨブの話が知恵という言葉も、よく出てきます。このヨブ記、箴言、伝道者、雅歌は本物のソロモンはどういうものかということになりますね。知恵のある知恵についての教えがまとまっていますね。詩篇はいろんな時代、いろんな人が書いたものが集められています。あるものはモーセが書いたとダビデが書いたというものもたくさんあります。ダビデの後のアサフとかエドトン。別の人が書いたもの書いた人が分からないもの時代もいろいろのようです。詩篇自体は、エズラ、ネヘミヤ。この捕囚から戻ってきた後に編纂されていると言われています。5つの巻物になっているのですが、その5つの巻物に誰かが集めてきたのです。ただあったものを並べた長さ順とか、書いた順とかジャンル別とか時代順とか並べた訳じゃなくて、なんらかの意図があって編集されたものとして詩篇は編集されています。詩篇はこの流れの中で言うと、この第2神殿での時代、囚われているように見えますけど、エセキエルの神殿の幻のように、実は偉大な発展のある状態として、この時代を見るということが出来るんだと思います。特に詩篇は、この時代の神殿、本物の神殿のようなものだと思って、この詩篇というものを読む方が、ただ困った時に読むとか、この時ダビデはどう思ってたのかなということを読んだりするよりも、もっと大切なものだと思います。詩篇については、また別の全体の見方を見ることを説明しなければいけないと思いますけれども、詩篇全体で神様と民の新しい愛の関係が、もっと正確に、もっと広く説明されていると、教えられているというのが、詩篇ということだと思います。この詩篇はこのあたり(図面参照)の時代のことを表してるものだと思います。

旧約聖書と新約聖書 一 モーセの律法と預言者と詩篇に書かれたことはすべて成就する ルカ24:4

旧約聖書	新約聖書
ヘブル語(コダヤ人語)+アラム語	ギリシャ語(異邦人語) - ヘブル語から5の翻訳を含む
はじめの契約 神が果たすと誓った約束	新しい契約 ヘブル
はじめに神は天と地を創設した 創世記1:1 光よあれ 創世記1:3	新しい天と新しい地を見た 黙示録21:1 まことの光が来る ヨハネ1:
見えるものは見えないもの(ことば)によってできた ヘブル11:3	世にきた(受肉した)イエスが(見えない)教会を建てて ヨハネ1: エペソ1-2: 1コリント5:
へしてはならない(ダメ!)、否定形、子どもに教える 十戒、申命記	へしようじゃないか、肯定形、大人に教える ヘブル
父と子の愛 - 神と民	父と子の愛 - キリストと教会、かしらとからだ
救い主が来るのを待つ - 預言(予言)、約束	救い主が来た! - 成就
来たるべきものの影 食べるな、祭り、いけにえ、安息日・・・	本体はキリスト コロサイ2: ヘブル8:5 10:1
来るな 出エジプト3:	来なさい、来てください 黙示録22:20
聖さにレベルあり - 至聖所、聖所、大祭司、祭司、レビ人、イスラエル人、異邦人	キリスト者はすべて主であり祭司である 黙示録1:5 5:10 1ペテロ2:9 すべては聖とされた
羊飼いの 土地、部族、系図	漁師 海、部族の別なし、系図なし
モーセの律法と預言者と詩篇 ルカ24:44 預言書(前預言者:歴史書、後預言者:預言書)	
へ以前の聖書	新しい聖書

■モーセの時代の御言葉は、創世記。ヨシュアの時代の後に、出エジプト記からヨシュア記までが新約聖書として編纂された。創世記は旧約聖書となった。ダビデの時代の御言葉は、そのモーセの律法、ソロモンの時代の後に、歴史書が編纂され、さらに預言書が書かれる。モーセの律法が旧約聖書となった。そして、主イエスの時代の御言葉は、モーセの律法と預言者と詩篇。主イエスの時代の後に、福音書から黙示録までが新約聖書として編纂された。

旧約聖書、新約聖書。旧約聖書というのはここまで(緑3階建の図)です。創世記から新約聖書はこの水色のところ、初めの天地の創造新しい天地の創造、これが旧約聖書と新約聖書というものです。旧約聖書と新約聖書って分かれてるようにも見えますけれど、一つの書物の章が違ってるものなんですよ。シーズン1とシーズン2。一つの大きな流れとしてここで切れているようには見えますけども、ひとつのストーリーです。旧約聖書と新約聖書、書いてある言語がまず違ってきます。ヘブライ語で書いてあるユダヤ人の言葉で書いてあるのが旧約聖書、ギリシャ語ユダヤ人じゃない国の言語ですね。ヘブル語からの翻訳を含んでいるギリシャ語で書いてあるのが新約聖書ですので、別の書物のように見えるから、旧約聖書と新約聖書のページ数もそれぞれに振られていたりします。

「初めに神が天と地を創造した。光よあれ。」というところから始まる旧約聖書。
「新しい天と新しい地を見たまことの光が来る」これが新約聖書ですね。見えるものが目に見えない神様によって作られた。これ初めの天地の創造です。新しい天地の創造はこの世に肉を持つ者として来られたイエス。目に見えるさわれるイエスが、目に見えない教会、見えない新しいエルサレムを建てる。これが新約聖書の時代です。古い時代は、「こうしたら駄目です」と否定形で命令されます。してはならない。十戒がそうですね。「してはならない、してはならない、してはならない」新しい時代は何々しようじゃないかという肯定的な表現に変わって行きます古い時代は子供に教えてるかのようです。父と子の関係ですね。新しい時代は大人に教えてるという状態ですね。中心が「神様と民、父と子の愛」というのが旧約時代です。新しい時代を「夫と妻の愛、キリストと教会、かしらとからだ」ということが中心になってきますので、大人の愛なのですね。大人に教えている子供に夫婦の愛の話をしても分かりません。大人に教えている。この愛の話と親子の愛というこの違いが旧約と新約聖書。特に強調点が違ってるということです。古い時代は待っている時代なんですね。預言、約束。「このあと救い主が来るよ、本物の王様が来るよ」ということを待っている。そして新しい時代は、「いよいよ、その救い主が来た」という成就の時代。古い時代は、来るべきものの影。食べるな、祭り、生贄、安息日、こういう命令はこれから来るものの影なのですね。月が太陽の光を照らしてるように、本体ではないのですね。本体は「キリストです」というのが新しい時代。「来るな」というのが古い時代。「来なさい」というのが新しい時代。こういう古い時代と新しい時代があまりにも違うので、旧約聖書と新約聖書という呼び方をしますが、古い時代の聖書のことを、聖書の中では、「モーセの律法と預言者と詩篇」という言い方でまとめています。ルカ福音書に24章で言われます。以前の聖書と新しい聖書ということも言えると思います。

イエス様が聖書と言った時には、主イエスの前の時代のこの部分しかありませんので、主イエスが聖書と言うと新約聖書は入ってないですね。この古いものを聖書と呼んでいます。モーセの時に聖書、書物という言い方をする時には、創世記までしかモーセは持っていませんので、モーセは聖書と言うと「創世記」のことを指していますね。自分の時代の後に出エジプト記からヨシュア記までが編纂されて一つの書物としてまとめられてるということだと思いますので、モーセの時代、もしくはヨシュアの時代の新約聖書は、出エジプト記からヨシュア記まで。旧約聖書は、創世記という時代でした。ダビデの時代になると、ダビデ、ソロモンの時代になると、ヨシュア記までが旧約聖書ですね。その後に追加されていくということで、旧約前の書物と新しい書物、前の書物と新しい書物ということで書かれて、追加されていったということなのですが、大きな大きな違いが、この始めの天地と新しい天地というところにありますので、こちらが旧約聖書(3階建の図)、これ(青の図)を目指している。これが新約聖書ということですので、この旧約聖書と新約聖書の中に似ていることがいろいろあります。それでこう書いてあ

る、こう書いてあるということが福音書の中や手紙の中で、この古い時代の聖書を引用しているということになりますので、この福音書から黙示録まで読む時に、前のところを無視して読むということができないのですね。それで皆さんも通読したいと。全体を把握することによって、本来のその目的、私たちがどこに向かっているのか。何のために向かっているのか。どうやってその家に導き入れられるのか。どうやったらその家が完成していくのか。本来の家になっていくのか。そういうことをこの全体のストーリーから学んでいくということで、ざっくり見て、ある時は細かくじっくり読んで、その繰り返しをしながら、そして何度も何度も読みながら比べながら見ていくということが、この聖書を読むということです。ざっくりと把握するという聖書の通読に是非チャレンジして、自分で確かめるというのがすごく大切ですから、確かめて、「ここにあれがある、ここにこれがある」という事を思い出せるようになりたいですね。